

スキミングによる偽造キャッシュカード等での犯罪事例 1

【ケース1】 ゴルフ場の貴重品ボックスからキャッシュカードを抜き取りスキミングされる

(年齢不明 被害者多数) 貴重品ボックスの暗証番号をキャッシュカードと同じ番号にしている

犯人は、ゴルフ場を利用していたお客さまがゴルフ場の貴重品ボックスに入れていたキャッシュカードをスキミングすることで、磁気記録情報を盗みとって偽造キャッシュカードを作成した。

貴重品ボックスには、暗証番号を設定している手元を隠し撮りするために、気が付かない位置に小型のビデオカメラが設置されており、犯人はその情報を使って貴重品ボックスを開けていたが、貴重品ボックスに設定した暗証番号はキャッシュカードの暗証番号と同一のものであったことから、後日、偽造されたキャッシュカードにより、お客さまの口座から多額の現金が不正に引き出されてしまった。

また、キャッシュカード自体は、犯罪の発覚を遅らせるために、貴重品ボックスに戻されていた。

【このケースの特徴】

- ・貴重品ボックスの暗証番号をキャッシュカードの暗証番号と同じ番号に設定するケースが多いことを狙った犯行です。
- ・キャッシュカード自体は盗まれていない(戻されている)ことから、発覚が遅れるケースが多いです。

【ケース2】 整体院やマッサージ店において従業員がキャッシュカードを抜き取りスキミングされる

(年齢不明 被害者多数) 会員カードの暗証番号をキャッシュカードと同じ番号にしている

お客さまが整体院で整体サービスを受けている最中、従業員だった犯人がお客さまの手荷物が入ったロッカーを勝手に開け、バックに入れていたキャッシュカードをスキミングすることで、磁気記録情報を盗み取って偽造キャッシュカードを作成した。

犯人は、店に登録してある会員情報から名前や生年月日等を不正に入手しており、キャッシュカードの暗証番号が会員情報から類推される番号(生年月日等)であったことから、後日、偽造されたキャッシュカードにより、お客さまの口座から多額の現金が不正に引き出されてしまった。

また、キャッシュカード自体は、犯罪の発覚を遅らせるために、バックの中に戻されていた。

【このケースの特徴】

- ・生年月日等がキャッシュカードの暗証番号に設定されるケースが多いことを狙った犯行です。
- ・キャッシュカード自体は盗まれていない(戻されている)ことから、発覚が遅れるケースが多いです。